



## 第 92 号

発行所  
〒010-0013 秋田市 南通 築地 1-1  
ファーストワン 築地 2A  
TEL・FAX:018 (825) 2116  
E-mail:aamt-01@comet.ocn.ne.jp  
一般社団法人秋田県臨床検査技師会事務所

発行人 佐藤 寛  
編集主幹 佐藤 義暢  
印刷所 石岡印刷所  
電話018(884) 4771

## 検体採取等に関する厚生労働省指定講習がスタート

「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部改正」と「臨床検査技師等に関する法律施行規則の一部改正」により平成27年4月1日から臨床検査技師の業務範囲が追加されます。

「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部改正」による業務範囲の追加

- ① 鼻腔拭い液、鼻腔吸引液、咽頭拭い液その他これらに類するものを採取する行為
- ② 表皮並びに体表及び口腔の粘膜を採取する行為(生検を除く)
- ③ 皮膚並びに体表及び口腔の粘膜の病変部位の膿を採取する行為
- ④ 鱗屑、痂皮その他の体表の付着物を採取する行為
- ⑤ 綿棒を用いて肛門から糞便を採取する行為

「臨床検査技師等に関する法律施行規則の一部改正」による業務範囲の追加

- ① 基準臭覚検査及び静脈性臭覚検査(静脈に注射する行為を除く)
- ② 電気味覚検査及び口紙ディスク法による味覚定量検査

これらの業務を行う為には、厚生労働大臣が指定する研修を履修することが義務づけられています  
が、日臨技では取り組みとして平成27年1月から厚労省指定講習会をスタートさせました。

1月に仙台で開催された指定講習会を受講した市立秋田総合病院の金田深樹技師より受講の  
体験を寄せて頂きました。なお法律の改正や指定講習については日臨技ホームページに詳しく掲  
載されております。

## 検体採取等に関する指定講習会に参加して

市立秋田総合病院 臨床検査科 金田 深樹

1月17日18日の両日、仙台市で開催された厚生労働省主催、検体採取等に関する指定講習会  
に参加しました。参加者は東北各地から145名、秋田からは10名程度の参加でした。

東北では初めての開催のため、実行委員や講師の先生方も手探りの状態で、スライドの内容や  
枚数、講義の時間配分など、今後見直され充実していくことになると思います。

新たに拡大された検体採取業務は侵襲性の少ない業務であると考えていましたが、鼻咽頭から  
の検体採取では、咽頭蓋膿瘍や咽頭浮腫があると採取時に強い呼吸困難になること、糞便採取で  
は腸管粘膜損傷の危険があることなど、危険性の認識を新たにしました。また、いずれの検査でも患  
者さんの不安を取り除くような接遇や、羞恥心への配慮が必要であるなど、学ぶべきことが多く、講  
習会に参加する意義は大きいと思います。

日臨技では今後4年間で5万人の受講を目指していますが、限られた実行委員だけで運営する  
には負担が大きいと考えられ、各県技師会からの協力が必要であると感じました。

久々の業務拡大です。獲得した業務を実践し、実績をあげて行くことが今後のさらなる業務拡大  
に繋がると思います。皆様、積極的に受講しましょう。



## 第38回秋田県医学検査学会を終えて ～「時代は変わる!」技師会も新たな時へ～

第38回秋田県医学検査学会 実行委員長 横山一二美

2014年11月8日、快晴。8時30分に第38回秋田県医学検査学会の実行委員および実務委員がにぎわい交流館AUに集まり、準備の最終確認をして8時45分には受付が始まりました。当会館は秋田市ににぎわいを取り戻そうと建てられた施設で、学会長の抄録集のあいさつにありましたように秋田赤十字病院の跡地に建設されました。

この度、中央地区担当での学会開催にあたり、秋田赤十字病院が事務局となり、実行委員長として県学会を開催できたことは私にとっても光栄に感じました。

学会準備は地区理事を中心に実行委員、実務委員を選出し、昨年4月から本格的な準備に入りました。1年前、秋田大学の廣川誠先生に教育講演の依頼をし、快く引き受けていただきましたので、大まかな骨子は決まっていたのですが、テーマをどうしようかずいぶんと迷いました。いろいろな中から最終的に「時代は変わる!継承・改革そして未来へ」に決まり、学会も今までに縛られず、自由に企画しようとアイデアを出してもらいました。

おかげさまで参加者は317名、一般演題も25題、2会場に分かれての発表となりました。デビュー賞は13題、いずれの発表も充実した内容であり、前年の学会で学術部長から若い技師へ「質問にも答えられるようにして欲しい」との要望がありましたが、十分対応していると思いました。市立秋田総合病院の小林希予志技師と大曲厚生医療センターの鈴木なお子技師の2名が学術賞を受賞し、これからのさらなるご活躍を期待いたします。

また、横手市商工観光部の大友幸憲氏の公開講演でこんなに秋田を元気にしようとしている若者がいることに勇気づけられました。みなさんはどうでしたか?

さらに「生活習慣病従事者講習会」を同時開催し、市立秋田総合病院の細葉美穂子先生のわかりやすい丁寧な講義を聞くことができ、この企画を組み入れたことも学会参加者が増えた一因と思われました。

情報交換会にはにぎわい交流館から徒歩10分の「ピアレストラン」に移動して行いましたが、そのせいで集まらないかもしれないという心配をよそに165名の参加者があり、ジャズを聴きながら、技師会員、賛助会員入り混じって語り、飲み、楽しむことができました。本学会に協力・参加してくださいました皆様、本当にありがとうございました。

県技師会も来年度は役員改正があり新しい体制になると思います。どの施設も若い技師が増え大きな力になりつつあります。時代は変わります。次世代にしっかりと引き継ぎ、新たな挑戦をしながら県技師会が更なる発展をすることを祈ります。







鈴木なお子 技師



小林希予志 技師



市立秋田総合病院 細葉美穂子 先生



秋田大学総合診療・検査診断学講座  
教授 廣川 誠 先生



横手市商工観光部 大友 幸憲 氏



情報交換会で乾杯の挨拶をする  
横山実行委員長



情報交換会の様子



情報交換会の様子



## 新たな挑戦 課題と展望

### ～初めて日臨技と主催した第28回健康と臨床検査展を終えて～

大館市立総合病院 太田 和子

第28回「健康と臨床検査展」(以下 検査展)は、12月7日(日)秋田市アルヴェで約100名近い運営委員の絶大なるご協力のもと執り行われた。

まずもって、この場をお借りして関係各位に改めて心よりお礼申し上げたい。

雪深く寒い早朝から一日中、秋田県民ならびに秋田県在住の被災者の方々のための技師会活動に時間と労力を注いでくださった70名近い秋臨技の技師の皆様、ご協賛くださったメーカーならびに業者の皆様、そして毎年お馴染みとなった三名の保健師の方達、今年度から新たにご参入くださった本イベントの核となる臨床検査専門医の二名の先生方、そして初参加となった秋臨技の縁の下の方たちである事務所の伊藤様、多くの方々の頑張りに支えられて検査展をなんとか終えることができた事に心より感謝申し上げます。おかげ様で受検者のアンケートから、検査していただいた事に概ね満足してくださった事が窺えた。

第28回と歴史ある秋臨技の「健康と臨床検査展」は、今年度いくつかの新しい局面を迎えた。6月、(一社)日本臨床衛生検査技師会(以下 日臨技)から助成の通達があった。「検査と健康展」と秋臨技とは呼称こそ異なるが、いわゆる検査展を11月に日臨技と共に展開できる県技師会に対し助成金を出し、同時にがんやSTI啓発事業も開催できるとその額面は大きくなる事、さらに日本臨床検査専門医会が共催し、検査展への臨床検査専門医の派遣も約束された。初めての事である。専門医による検査結果総括や相談は、まちがいなくイベントの質の向上に繋がる。加えて今年度、日臨技が力を入れている「検査説明・相談のできる技師の育成」の事業の一貫として、医師の説明時に同席し学びの場を設けるようにという条件も付いていた。日臨技も私と同じで欲張りだ(笑)。

一方、三年目を迎える震災復興支援事業も岐路に立たされていた。避難者のニーズの変化が健康から住居・職業などに変化してきた事を新聞紙上で知り、対応策を理事会で協議した。その結果、検査展へのご招待という形に切替え、希望者に経年的に継続支援することで「私達はあなた達を忘れない」とアピールする事にした。今年度は検査展に15名の申し込みがあり13名に会場にいらした。

これまでと違う事がもう一つ、開催が通常の11月中旬ではなく雪深く寒い、しかも同時開催イベントが他に無い12月7日(日)に設定になった事だ。昨年の反省から、どれだけ人を集められるか……広報をどうやって行うかが大きな課題であった。そこでポスターやチラシを作成した。事前掲示や配布ばかりでな

アンケートでは、主要病院へのポスター掲示、ちらし配備が功を奏したことが窺えた。さらに会長さんのご協力でマスコミを駆使し、新聞、テレビ、ラジオの力も借りることができた。

今回の大きな誤算は、当日朝、受付前に並ぶ長蛇の列、人またひとの波で前代未聞の状況であった事。開場からわずか30分余りで、想定130名を超えそうになり、受付を早々にクローズせざるを得なかった事である。作成したマニュアルが、どっと押し寄せる大勢の受検者を肅々とさばけるレベルではなかった事が、今回の大きな課題であった。この事はアンケートからもしっかり窺え、反省しきりである。途中でまた開場し、最終的には190名近くに達した。来年度に向けて、理事会主導で検査項目・機器台数の見直しも含めたマニュアル作りに取り組んでいるところである。

しかしながら、私の力不足を運営委員の皆さんが工夫を凝らして臨機応変に進めてくださった。とりわけ学術部のがん・STI担当の皆様には、本業を差し置いて検査展にお手伝いいただき感謝にたえない。来年度も同時開催され、2016年11月15日(日)同じアルヴェで行われる。ブース開設場所や説明タイミングの改善を図っていく必要がある。寒さもそんなに厳しくない為、個人票と検査手順の説明書を手渡して受付を終えた後は、開場までの待ち時間にがん・STIブースでの説明を聞いていただくのはどうかという提案も然りである。



初めてお会いした二人の専門医の方は気さくな方たちで、保健師さんと同様、昼食もとらず最後まで頑張ってくださいました。専門医のお二人に頑張っていた事でグレードもアップし、その分の満足度もアップした事をアンケートでも窺う事ができた。

これまでもそうであったように、不備な点は改善して次に繋げるため頑張っていこうと思う。これからも引き続き、皆様のご協力をお願いしたい。

文末になりましたが、秋臨技の会員で良かったと思える会員が一人でも増える事を期待し、秋臨技の益々の発展を祈念いたしております。

私事で恐縮ながら、この春、定年退職を迎えるにあたり、2015年5月の総会を持って副会長の任を解かれることになりました。これまでの皆様のご支援ご協力に心より感謝申し上げます。ややしばらくは自宅会員として皆様のお世話になります。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。



開場前から長蛇の列となった今回の健康と検査展



開場の様子



日本臨床検査専門医会会長  
佐藤 友博 先生



秋田大学総合診療・検査診断学講座准教授  
植木 重治 先生



同時に行われた癌予防の啓発活動の様子



同時開催されたSTI啓発事業の様子



## 世界エイズデー

平成26年12月1日の「世界エイズデー」に県内8保健所管内でエイズ予防キャンペーンが開催されました。

秋田県臨床検査技師会でもこのキャンペーンに参加し、各地の駅前やショッピングセンターなどで保健所職員や他団体と一緒にエイズ予防の啓蒙活動を行いました。



## 同時開催された職業体験

由利組合病院と市立秋田総合病院で高校生を対象とした職業体験が同時開催されました。それぞれの様子をご報告頂きました。



2月15日(日)に由利組合総合病院と同時開催で職業体験の催しを行いました。当院の当日参加の高校生は11名(12名の予定でしたが、1名が急にキャンセル)で、すべて女子でした。9時から30分ずつに分けて心電図、超音波、尿、血液型、顕微鏡観察(血液細胞や細菌)を2班に分けて行い、12時過ぎに終了しました。血液型について説明している最中に、ずっと立ちっぱなしだったせいか気分が悪くなる方が2名出て急いでベッドに足を高くして横にならせたのですが、すぐに元気になりホッとしました。帰りに技師会からの記念品(1,000円相当の文具)をお渡しして解散となりましたが、参加は2年生が多く、これから本気で進路を考えていくことになると思います。臨床検査技師が不足している今の状況を思うと、1人でも多く我々と同じ臨床検査技師の道に進む方が出てくれれば良いと思います。



2月15日(日)、市立秋田総合病院と同時に職業体験を行った。当院には、市内の3校から、16名(女子生徒15名、男子生徒1名)の生徒が参加し、10時から12時まで5班に分け、病理検査、検体検査、輸血、細菌、生理(心電図、肺機能、超音波)の5部門について体験してもらった。顕微鏡で病理標本や血液、尿、細菌など観察したり、血液型の判定を体験してもらった。生理検査では、患者役のスタッフの心電図や超音波検査を見学したり、肺機能の検査を体験してもらった。見学終了後は当検査科スタッフと共に昼食を食べ解散した。予想を超えた参加者のため、当初より多い16名のスタッフに協力してもらい、大きな混乱もなく無事終了できた。今回参加した生徒1名はすでに臨床検査技師の道に進む事が決まっているとのことであった。他の生徒も将来を考えるにあたって、臨床検査技師が候補の一つになればと思う。

### 掲載記事の訂正について

秋臨技だより第91号に掲載した平成26年度永年職務精励者表彰の20年表彰者の紹介記事で、お2人の方の施設名に誤りがありました。また、平成26年度福利厚生事業のボーリング大会の日付けが違っておりました。正しくは以下の通りです。お詫びして訂正致します。

佐々木良明 医療法人あけぼの会 花園病院  
後藤 利明 秋田県厚生連平鹿総合病院  
ボーリング大会 平成26年7月6日(日)